



浮世畫譜初編

395  
1





門子委5  
卷 395  
卷 1-3



世に書のよき一は身守る源氏様とて  
少くはねしはるるのよき書とてはるる李氏  
白氏の體のよき一は漢編のよき一は身守る實  
心の詞のよき一は心守る清のよき一は心守る  
越のよき一は心守る心守る心守る心守る  
心守る心守る心守る心守る心守る心守る  
鳥獸に味く入物平たふよき心守る白花の





漢齋浮世



畫譜

のしるに風情あはれ筆  
 今掃はしらすあはれ大江  
 いしほまゝ種くのも  
 換し半くたくみあるま自  
 めるく猶二三篇を副  
 とか守るゝを漢齋疎  
 けくまゝ彫画のしるま

椿

古きとあはれ  
 名は漢齋のしるま  
 書を二書のしるま  
 改訂せり筆力強  
 出たしと次すお奥妙  
 のくはまを帛紙  
 英白の一滴おの  
 椿のしるま 林津大





































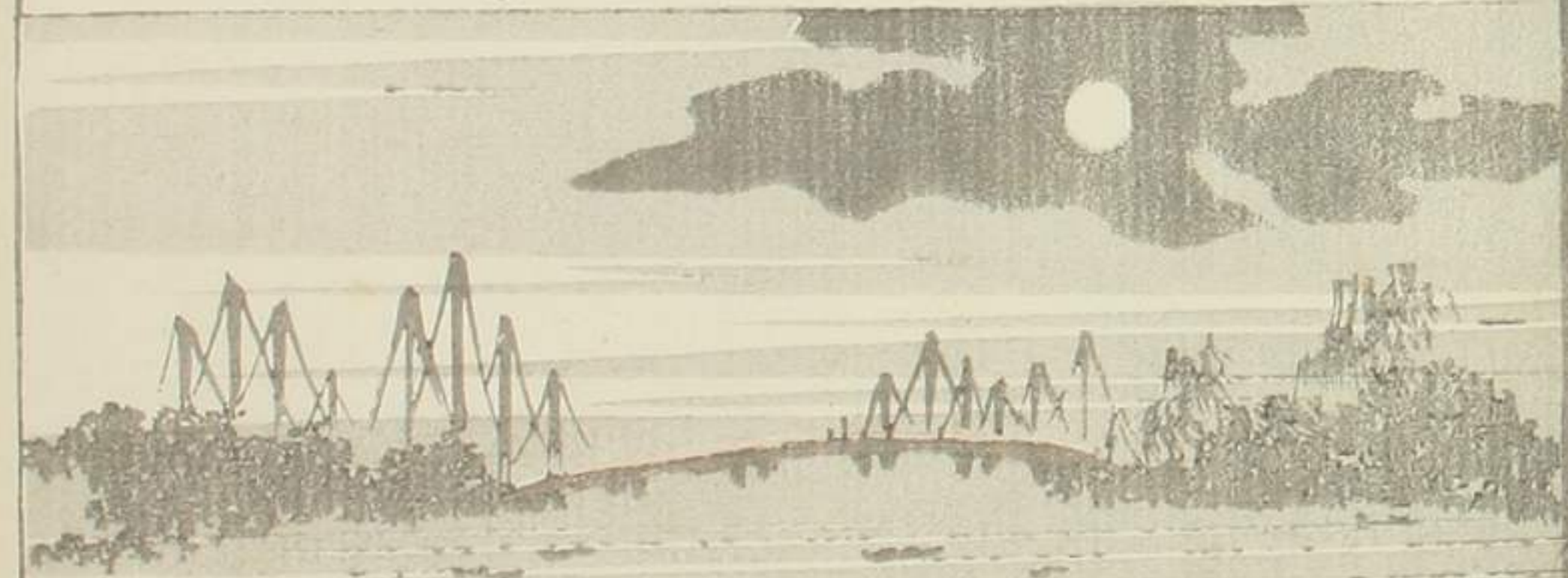












益の  
交の  
和



夜の  
選の



上

















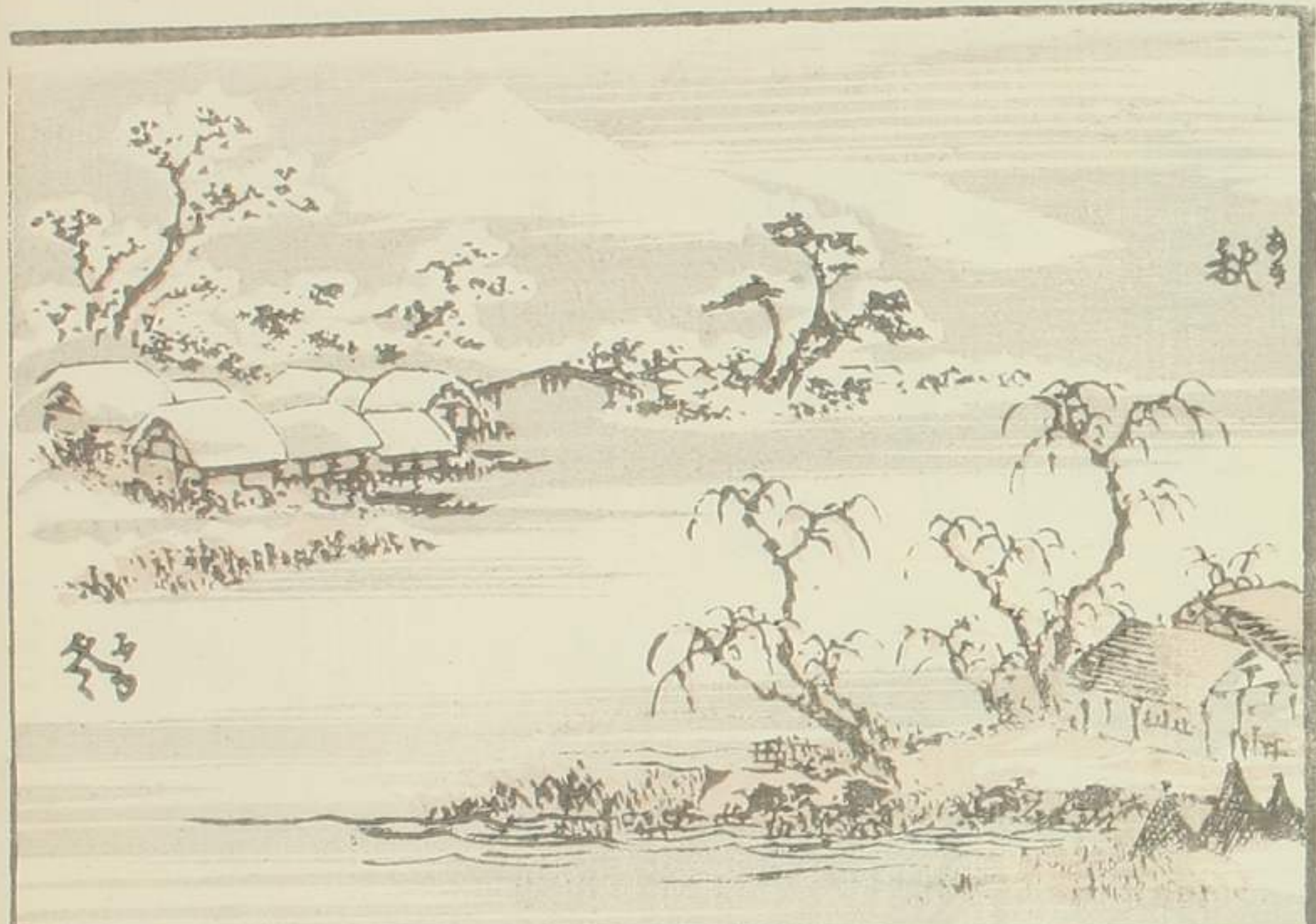








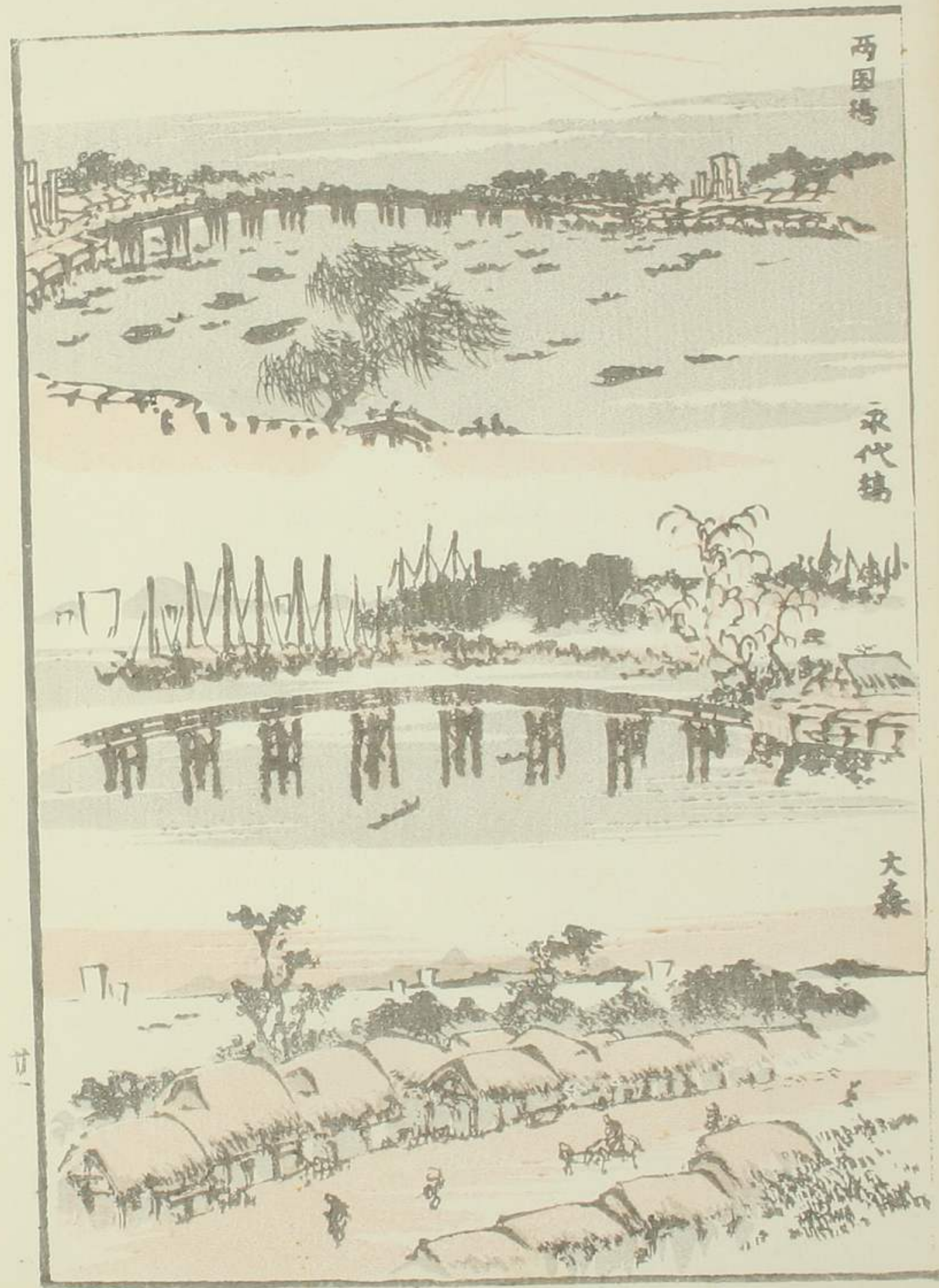
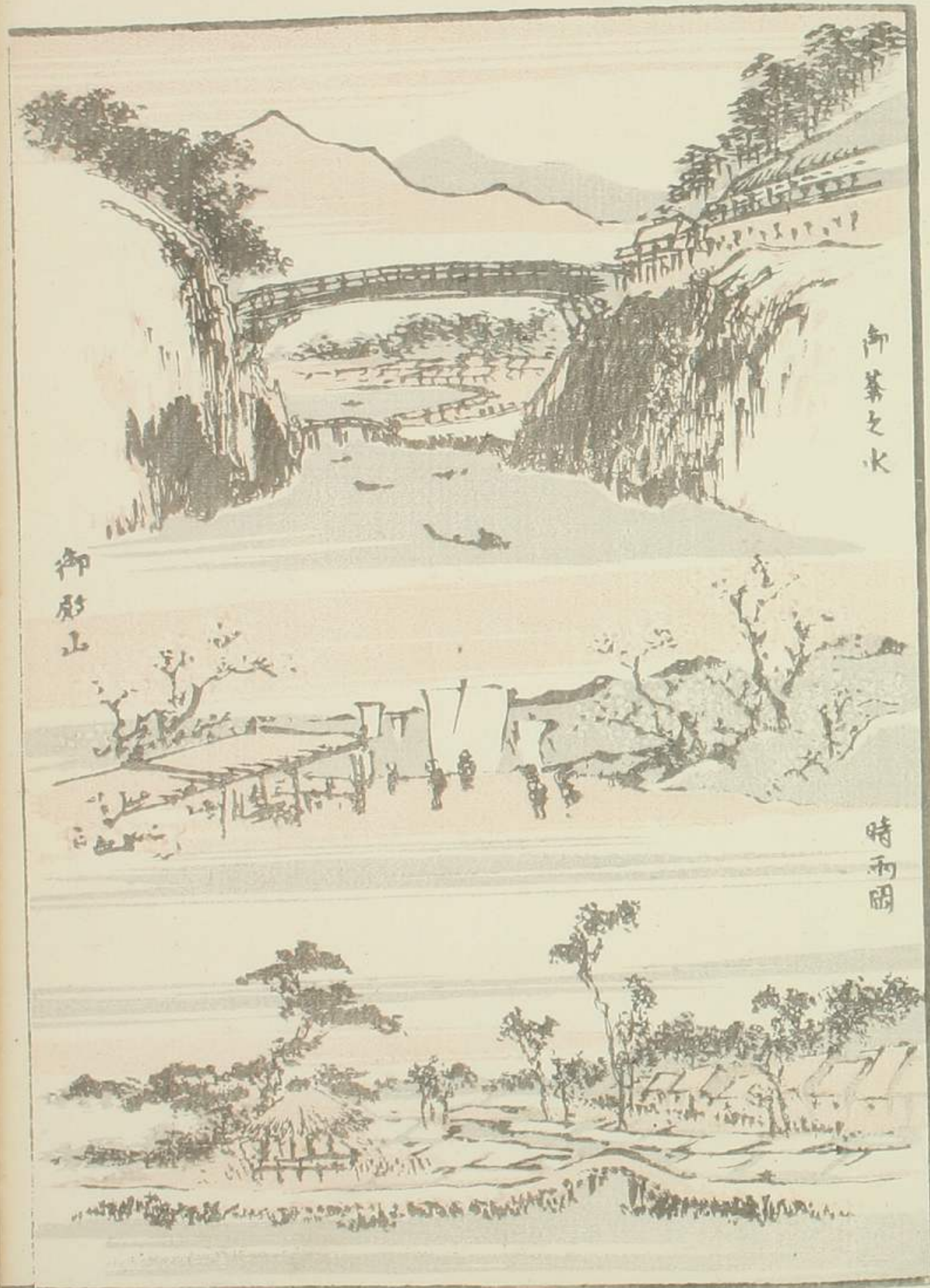




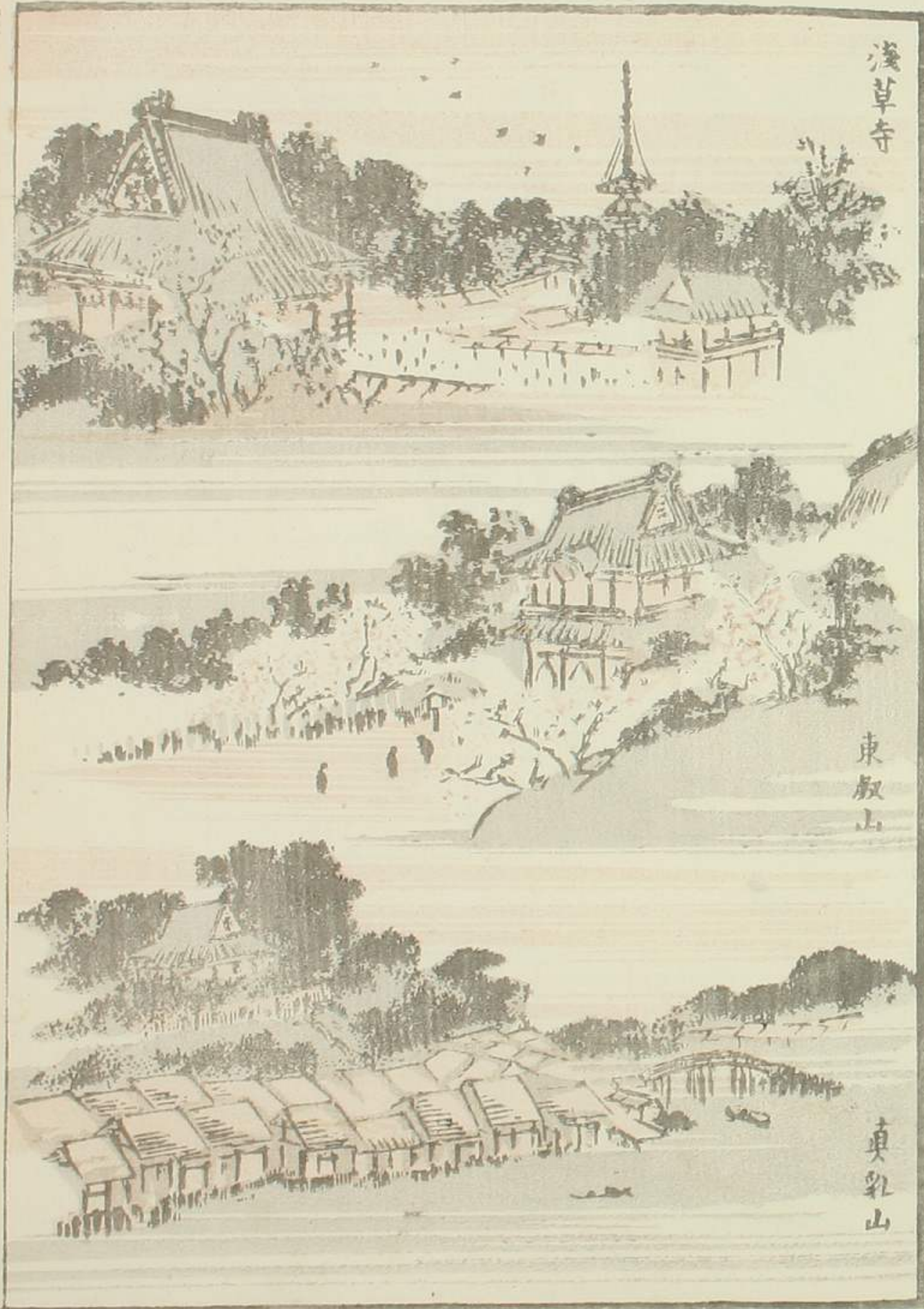












淺草寺

東叡山

真乳山



三浦名所

中川  
神浦

新吉原































